



三刀屋金属 株式会社

創 業 昭和51 (1976) 年10月
代表者 代表取締役 林 昌治
社員数 198名 (男159名 女39名)
本 社 島根県雲南市三刀屋町殿河内144

事業内容

自動車部品製造

勤務地(採用エリア)

雲南市

採用区分

新卒採用 キャリア採用

インターンシップ・キャリア

有 随時受け入れ。詳細は下記電話番号までお問い合わせを。

採用担当者からあなたへ

「企業は人なり」。私たちは、ものづくりを通じて、喜びにあふれる生活環境を目指します。
〈挑戦〉夢を描き、一丸となって行動できる人
〈継続〉理念をもって行動できる人
〈誠実〉良心に従って行動できる人
〈情熱〉明るく前向きに素早く行動できる人
〈尊重〉認め合い共に行動できる人

企画管理室 総務人事Gr
松尾 進さん

採用に関するお問い合わせ先

0854-45-2931

公式サイトは
こちら



社員が語る、三刀屋金属の魅力

時間も手間もかかるけれど、完成したときの達成感は格別

中学生の頃、地元の自動車整備工場での職場体験をきっかけに、自動車の構造や多くの部品に興味を持ち、自動車関連の仕事を目指すように。大学卒業後は別の自動車関連会社で経験を積み、以前から知っていた三刀屋金属に応募。開発系の知識とスキルを評価され、技術部に配属された。

現在は、自動車部品の開発に携わり、工程設計や金型・治具の設計・開発を担当している。金型メーカーが作成した図面がプレス仕様に合っているか、生産効率に問題がないかなどを検討し、製造の現場へとつなぐ重要な役割を担っている。

「自動車の構造は複雑で、部品をゼロから作るには多くの時間と労力を費やします。でもその分、自分が携わった自動車が街を走っている姿を見ると、やりがいとうれしさを感じますね」と畑野さん。一つの製品を作るためには多くの部署やスタッフが関わり、チーム一体となって取り組む。その過程で得られる達成感や、ものづくりの喜びを仲間と共有できることが、この仕事の大きな魅力である。



企画管理本部 営業技術部 技術Gr
畑野 達也さん
2022年入社(3年目)



1 中小物プレス品はロボットを活用した自動ラインで溶接し、骨格となる重要部品を生産する 2 2025年6月に代表取締役に就任した林社長。地元・雲南市出身で、長年現場の視点から同社を支えてきた 3 敷地内に設けられた「技能実践道場」。従業員が技術を磨く環境が整う 4 大型プレス機が並ぶ生産ライン。徹底した管理体制で自動車部品を製造する

63

LEADING COMPANY

三刀屋金属 株式会社

●自動車部品製造

確かな技術でものづくりに挑み 地域とともに未来をつくる

創業から半世紀、磨き抜かれた技術で自動車部品を生み出す《三刀屋金属株式会社》。地域に根ざしながら、時代の変化に応じた新技術の開発にも挑み、未来へ向けて進化を続けている。

信頼と技術で50年 喜ばれるものづくりを

雲南市三刀屋町に工場を構える《三刀屋金属株式会社》は、自動車部品の製造を専門とする企業である。創業は1972年。広島で自動車部品を製造していた株式会社キレックス(当時は蔵田金属工業)の三刀屋工場として設立され、1976年に独立。以来50年以上にわたる操業を続けている。

「ものづくりを通じて喜びにあふれた生活環境をつくり、お客様に喜ばれる商品を高品質・高効率で提供することを理念としています」と語るのは、代表取締役の林昌治社長。現在はアルミ・ステンレス加工の技術をさらに磨き上げるとともに、「薄型成形技術」の研究開発にも力を注いでいる。同社が得意とする難加工技術を応用し、将来的な商品化を見据えた新たな取り組みである。今後は自動車部品以外への展開も視野に、地元企業との連携・協業を深めていく方針だ。「地域産業と手を取り合い、ともに発展していきたい」と林社長。自動車部品製造で培った技術力を基盤に、新たな分野へ挑み続ける三刀屋金属。地域に根ざした企業として、これからもものづくりを通じて社会に貢献していく。

好きなことを仕事に。 ものづくりの現場で日々成長を感じて

小さい頃からものづくりが好きだったという勝部さん。高校時代の職場見学で訪れた同社では、社員が丁寧に作業に取り組む姿が印象的だったという。「会社全体で“良いものをつくらう”という雰囲気伝わってきて、自分もここで働きたいと思いました」と振り返る。現在はロボットによるスポット溶接を担当。治具と呼ばれる型に部品をセットし、ボタン操作で溶接を行う。シンプルに見えるが、不良を出さないためには細かな確認が欠かせない。作業効率を考えながら、より正確で丁寧な製品づくりを心がけているという。

入社後は、人見知りだった性格も変化し、仲間とのコミュニケーションを通じて、誰とでも自然に話せるようになった。「上下の垣根がなく、意見を言いやすい明るい職場の雰囲気が、自分の成長を後押ししてくれました」と話す。ものづくり好きが高じて、休日はお菓子作りに挑戦することもあるという勝部さん。今後は資格取得や新しい技術の習得を重ね、より会社に貢献できる技術者を目指している。



製造本部 車体製造部 ロボットGr
勝部 巧也さん
2021年入社(4年目)

